

# 越来小学校のN I E 実践

沖縄市立越来小学校  
教 諭 古波津 聡

## 1 はじめに

平成22年度、23年度の2年間、N I Eの実践指定校として、5学年を中心に全職員・全校児童で新聞を活用した実践に取り組んできた。また本校の校内研修の研究主題である「思考力をたかめ生き生きと表現できる子の育成～各教科・領域での言語活動の充実を通して～」とリンクさせ、教科を限定せず、児童が感じたことや考えたことを、根拠をもって表現できるように新聞の良さが十分活かされるような場を設定して活動を行った。

## 2 新聞と児童達との実態

N I Eを実践していくにあたり、「新聞」についての児童の実態を把握するためにアンケートを実施した。アンケートの結果、児童の家庭における新聞購読率は40%弱である。それに対して、新聞を読んだことがあると答えた児童が80%強であった。家庭で新聞を購読していない児童は、祖父母の家で新聞を読んでいるようである。また児童が読む新聞記事は、テレビ欄、スポーツ、4コマ漫画がほとんどであった。新聞の役割や何が書かれているかわからない児童もいた。

以上のことから、新聞と児童の関わりが十分でない実態がわかった。そこで、新聞が児童の身近な学習ツールのひとつとして根付かせていけるような活動を計画して行った。

## 3 N I Eを推進するときのキーワード

N I Eを実践するにあたって一番大切にしたいことは、児童と新聞をどう向かい合わせるかということである。新聞で使われている言葉や漢字は児童にとって難しい。ただ新聞を児童にあたえても、記事を読むことも意味を理解することも容易ではない。自分の考えや感想をもつことは大変な作業である。

そこで大切にしたいキーワードが、新聞に「触れる」ということであり、「読ませる」のではなく、児童に新聞に「触れる」ことを意識させた。「触れる」ことで、新聞に興味をもち、自分の気になる記事を見つけ、その記事を読み、そしてその記事への感想を持ち、最後に発信する活動へと導いてきた。

## 4 実践の概要

平成22年度 実践時期 10月～3月	
教科・領域	国語科・総合的な学習の時間
具体的な活動	・オリエンテーション（新聞の秘密を探ろう！） ・新聞の仕組みを知ろう。新聞記者を招いて。 ・新聞記事を書いてみよう。「沖縄のよさを発信しよう」 平成22年度N I Eフォーラム公開授業 「自分たちの書いた新聞記事に見出しを付けよう！」

平成23年度 実践時期 5月～2月	
教科・領域	国語科・総合的な学習の時間・生活科
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・東日本大震災の記事を集めよう。(自分たちに何ができるか考えよう)</li> <li>・記事を比較しよう。(新聞の役割を理解する) <ul style="list-style-type: none"> <li>①「慰霊の日」について、全国紙と地元新聞の記事の取り扱い方や記事の内容を比較して読むことができる。</li> <li>②「原爆の日」について、全国紙と地元新聞の記事の取り扱い方や記事の内容を比較して読むことができる。</li> </ul> </li> <li>・自分の好きな写真や記事を見つけよう。 自分の好きな写真や記事を見つけ、その写真や記事を選んだ理由や感想を書くことができる。</li> <li>・新聞から見つけた写真に、吹き出しをつけよう。</li> <li>・平和学習に向けて 沖縄戦について取材を重ねている記者を招いて、講話を聞く。</li> <li>・興味関心のある記事を収集し、スクラップ新聞を作成しよう。</li> </ul>

## 5 実践の詳細

### (1) 総合的な学習の時間としての実践

#### オリエンテーション

##### 《NIEワークショップ》



NIEアドバイザー、兼松力先生を招き、新聞基本的な読み方や新聞を活用したワークショップを行った。

ワークショップでは、新聞を記事ごとに切り分けてパズルを作成したり、4コマ漫画のオチの場面の吹き出しを考えたり、即授業で使える新聞の活用術を学ぶことができた。

兼松先生は、新聞は教育の道具（ツール）のひとつであることを強調した

##### 《新聞の仕組みについて知ろう。》



新聞の値段、紙面の構成、記事の書き方など、児童が新聞に対する興味関心が喚起されるように新聞の仕組みについて学習を行った。授業を進める時に大切なことは、児童一人ひとりに新聞を配布すること。そして新聞を「読ませる」のではなく「触れさせる」きっかけをつくることである。新聞記者を招いて授業を行ったことで、児童の興味関心は高まり、楽しくも奥の深い学習になった。

### 《東日本大震災の記事を集めて、自分にできることを考えよう》(5年)



・総合学習の時間に、児童一人ひとりに新聞を配布し、東日本大震災について書かれている記事を探し、その記事に書かれている内容の説明と自分の感想を書く。それを発表し合い、感想を交流することで、「今、自分にできること」を考えさせた。

### 《平和学習の事前学習としての取り組み》(6年)



・66年前に多くの一般住民が犠牲になったことなど沖縄戦の概要を説明。9月から連載中の「未来に伝える沖縄戦」の取材経験を踏まえ、「戦争で生き残った人も家族を失った苦しさや学校に行けない苦勞があり、今でも戦争を引きずっている。人生を変えてしまうのが戦争だ」と語った。「これからも戦争について考えていきたい」と発表。大城駿希君は「戦争の話は怖いけど、伝えなければ後の世代の人が分からなくなるから、自分たちも伝えていきたい」と力を込めた。

### 《「スクラップ新聞」を作ろう。》(5年)



・23年度のNIEの学習のまとめとして、「スクラップ新聞」を作成した。「スクラップ新聞」を作るときには、情報を選ぶ・比較する・分類する・再構成するなどの力が必要とするからである。

児童は、普段から自分の気になった記事を切り抜き、感想を書く活動を行っている。それを活用して「スクラップ新聞」を作成した。作成するときのポイントの一つとして、視野を広げてもらうためにスポーツ記事を対象外とした。また、記事のレイアウトを再構成したり、色画用紙を使ったりと作品の見栄えにも重視した。児童が自分なりの意見をもつためのステップになったり、友だちの興味関心を知る機会にもなった。

### (2) 国語科としての実践

#### 《22年度のNIEフォーラムでの公開授業》(5年)

##### ・「沖縄を発信しよう」



新聞記者を講師に招き、記事の書き方や紙面づくりについて学んできた。そして学習のまとめとして、自分たちの書いた新聞記事に、グループで話し合い、読者に記事を読みたいと思わせるような「見出し」を付ける学習を行った。言葉を選んだり、言葉をつないだり、なぜその見出しをつけたのか理由（根拠）を考えながら見出しをつけることができた。決まった見出しを発表し賞賛し合った。

《記事を比較しよう》(5年国語科研究授業)

①「慰霊の日」についての記事を集める。

新聞を通して「慰霊の日」を考える授業を行った。琉球新報や全国紙から事前に切り抜いた記事を使い、取り上げ方の違いや新聞の役割について考えた。児童たちは、沖縄戦や慰霊の日に関する記事を読みながら、多くの人に情報を知らせることなど新聞の役割を学んだ上で、「二度と戦争をしないために、自分たちも頑張らないといけない」などと、学びを深めることができた。

②「原爆の日」についての記事を集める。



広島・長崎の地元の新聞を取り寄せ、「原爆の日」に対する記事の取り上げ方を調べたり、記事を読み進めることで、福島原発の問題と関連づけて「原爆問題」について考えることができた。また、沖縄戦や原爆について取材を続けている記者の講話(ビデオ)を聞くことで、児童の興味関心が高まり、「原爆(原発)」が「慰霊の日」と同様に後世に語り続けていかなければならないできごとであることを認識する機会になった。

《様子を表す言葉を考えよう》(2年国語科研究授業)



・さまざまな様子を表す言葉について知り、言葉への興味を広げることを目標に授業を行った。  
新聞の写真を見ながら「様子を表す言葉」を考えて、文章に仕上げることに挑戦した。児童は上海のシンボルであるオリエンタルパールタワーの夜景を映し出す新聞写真を見ながら、その様子を自分の考えた言葉で表現することができた。  
新聞は季節感を表すなど視覚に訴える写真が豊富にあり、容易に手に入れることができる教材である。授業を通して新聞に慣れ親しませることができた。

(3) 生活科としての実践(低学年)

東日本大震災の写真を見て(1, 2年)



・あらかじめ担任が選んだ「東日本大震災」の写真を見て、感じたこと・考えたこと等を、自分の言葉で表現する活動を行った。  
「家族が亡くなってかわいそう」「家や建物が壊されて怖い」「どうしてこんなことが起きたの?」など、思い思いの感想を書くことができた。

(4) 新聞に触れる・慣れるための実践(全学年)

吹き出しを付けてみよう



・新聞の中から、自分の気に入った人物の写真を見つけ、その人が何を言っているのか考えて書く活動を行った。吹き出しを付けるときのポイントとして、①低学年には、吹き出しの文字数を制限しない。②中学年には、吹き出しの文字数を制限した。(10文字以内)③高学年には、記事の内容に即した吹き出しを付ける。  
この学習を通して、児童は新聞を最初から最後までページをめくり、一生懸命写真を探すことができた。高学年では、めくるだけではなく、自分の気になった見出しを見つけると記事を読み始める児童もいた。新聞に対する興味関心を喚起する学習になった。

6 成果と課題

【成果】

- 2年間の実践期間を通して、全児童が新聞に触れる活動を授業で体験し、新聞に対する抵抗感を感じることなく、楽しく学習することができた。
- 社会の動きや出来事に、興味関心をもつ児童が増えてきた。(県内から国内へ、そして海外へ目を向けるようになった。)
- テレビやインターネットのニュースとリンクして、新聞のニュースを読むようになった。
- 自分のなりたい職業に関する記事を見つけて読んだり、記者の話聞くことで「記者になりたい」と思う児童が増えたり、キャリア教育の一環としてNIEの学習を進めることができた。
- 文章を書くときに5W1Hを意識したり、根拠をもって自分の意見を発表したり、児童の言語力や表現力が向上した。
- 新聞記者を招いての出前授業を行ったことで、新聞に対して、より親しみがわくようになった。

【課題】

- 教科や道徳等のカリキュラムの中で、どこでどのような活動を組み込めるか、見直しをもった計画が必要である。(低学年での新聞活用をもっと増やす必要がある。)
- 新聞で使用されている漢字や語句が難しいと感じている児童が多く、その児童への個別指導が必要である。

【子ども達の作品】「気に入った人物の写真に、吹き出しをつけよう。」

